

風水害から身を守るために！

防災・減災について考えよう vol.17

避難するときのポイントを知っておきましょう

問 危機管理室 (☎ 62-3145)

気候変動の影響により、雨の量が極端に多い「異常な雨」の頻度が増えてきています。今後、これまで経験したことがない大雨により、甚大な被害につながる恐れがあります。

過去の経験にとらわれず、ハザードマップなどで地区や自宅周辺の危険箇所や避難経路、避難場所の確認を行い、川の近くや山の近くの場合には早めの避難を心がけましょう。

★声をかけ合う

隣近所で声をかけ合い、地域で助け合いながら早めに避難しましょう。



★安全な服装と最小限の荷物

動きやすい服装で、荷物は最小限にしましょう。リュックで背負うなどして両手が使えるようにしましょう。



★支援者といっしょに

高齢者や障害のある人など避難に支援が必要な人は、支援者と一緒に避難しましょう。



★長靴は履かない

浸水した場所を歩くとき、長靴では水が入ったり脱げたりするため歩きづらくなります。運動靴などを履いて避難しましょう。



★水の深さに注意

一般に歩行ができる水の深さの目安は約50cmで、水の流れが速い場合は20cm程度でも危険です。高齢者の場合は、よりリスクが高いため、危ないと判断した場合は、無理せず、高いところで救助を待ちましょう。



★様子を見に行かない

増水した川や水路などの様子を見に行くのは禁物です。避難する際にもなるべく近づかないようにしましょう。



★見えない路面に注意

道路が冠水していると足元が見えにくいので、杖や傘など長いもので路面を確認しながら避難しましょう。特に、側溝や水路、マンホールなどはとても危険です。



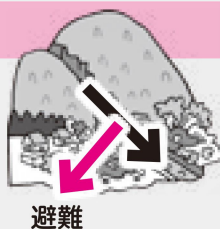
★不安を感じたら避難する

災害の不安を感じたら、避難指示などが出ていなくても、早めに避難しましょう。



★土砂の流れに直角に

土石流のリスクがあるときは、土砂の流れる方向に対して直角に避難しましょう。



★正しい情報を入手する

テレビ、ラジオで伝えられる気象庁の情報や防災無線などで発表される市の防災情報を集めて避難行動の判断に生かしましょう。

